コラム　ＡＢＣ順による不利？

大谷　正夫　（協同総研顧問）

社会における、あらゆる差別について、２１世紀においては、是非とも解決し、禁止していかねばならない重要な課題となっていることは言うまでもない。しかし、それぞれの問題毎に困難は山積しているようだ。

南アフリカのダーバンで開催された人種差別(Racism)反対の国連会議での論議や、その顛末をみても、現代世界政治のみならず、植民や奴隷狩りの過去の歴史とも深く関連し、問題解決が一筋縄ではいかないことを示している。

さて、一寸リラックスして、差別とまではいかないまでも、名前のアルファベット順により被る不利についての問題が、欧米諸国では、まじめに論じられていることを紹介しておこう。

英誌エコノミスト９月初旬号によれば、不利の例は枚挙に暇がない。

タクシー会社のAAAAの方が、Zodiacよりも有利である。お客は最初のページから電話帳を繰るからである。

すべての文書もアルファベット順で、長い名簿であれば、終いのほうは、いい加減にしか見てもらえない。

表彰式や卒業式も同様で、最後の Zysmans になる頃には参加者はあきて、 ZZZ（グーグー)と鼾をかいている。

また偶然の一致ではないかと思えるが、Ｇ７の首脳たちの６人は皆、アルファベットの前半が名前の頭文字である(Berlusconi、 Blair、 Bush、 Chirac、Chretien、Koizumi)。

しかしこの場合、漢字表記の小泉首相までアルファベット順に入れたのは、こじつけであると言われても仕方あるまい。

世界の５大リッチマンも Gatesをはじめ、皆アルファベットの前半の頭文字であるようだ。

アルファベット順の弊害を説く人々は、それは幼稚園から始まり、学校教育全体を通じていえるとのこと。児童の名前を覚え易くするため、教師はアルファベット順に席をつくり、前席のものは常に教師の注目をあびて、鍛えられるチャンスが多いが、後席のものは教師から指される回数が少なく、学生はそのことを謳歌するが、それだけ成績には良い影響は与えないという。

どうしたら良いのか、エコノミスト誌も解決策はないようだといっている。

名前を変えること、女性はアルファベットの前半の名前の人と結婚すること。しかしこれらはすべて冗談であり非現実的だ。

ＡＢＣでなくＺＹＸの順からスタートせよといっても、これも難しいし。例えそうなっても問題は再燃する。

要はすべてのハンディキャップに勇敢に立ち向かうことだろうか。

さて、ひるがえって我が国では似たようなことがあり得るのだろうか。

アイウエオの後のほうの頭文字で損をしている例があるだろうか。

小生の頭文字はオなので、比較的前のほうにリストアップされることが多いが、それだからといって何という事もない。

しかし、一般的に最後のほうに来るのは、あまり歓迎されないのであろう。

だからこそ、残り物に福とか、名のない星は宵から出るなどの慰めの諺や、最後に出るのが真打ちなどといわれるのかも知れない。

ところが、すごい表現をする国もある。

堀越真紀子さんによれば、最後のものは犬に咬まれる（Den Letzen beissen die Hunde）とドイツではいうそうである。

『不思議なアトムの子育て / アトム保育所は大人が育つ 』 **横川和夫 / 著**
太郎次郎社　2001 年 4 月発行　230P 20cm
ISBN: 4-8118-0660-3 価格: 2,000 円
『おたがいさま！ / 家出のできるまちづくり』 **アトム共同保育所 / 編**
2000 年 10 月発行　173P 26cm
価格：1,500 円
お求めは協同総研まで 03-5963-5355
e-mail:kyodoken@jicr.org